

宇治市産業戦略に位置付けた取組成果の具体例

(1) 事業のしやすい環境づくり

- 訪問した企業から、事業拡張用地探しに困っているというお声をお聞きし、市が把握している用地の情報を提供した結果、新工場の建設に繋がった。
- 国道 24 号沿道安田町地区では一部地域で造成が完了し、今後工場建設予定。
- 農業支援制度説明会の開催と同時に意見交換会も行い、その際にいただいた農業者の意見を参考に新たな支援制度（農業の効率化や生産性を向上させる機器導入への支援制度）を創設した

(2) 市内産業の成長支援

- 訪問した企業から自社製品の部品加工の発注先を探しているとの声をお聞きし、別の市内企業を紹介し受注が実現した。
- 後継者向け伴走支援プログラム「アトツギラボ」の実施により、プログラム参加期間中に事業承継される方や、創業される方が出てきた。
- 「未来モノづくり国際 EXPO」等展示会への市内企業合同出展により、市内事業者の製品や技術を国内外に発信したところ、来場企業との商談、受注に繋がった。

(3) 人材不足への対応

- 市内企業合同での求職者向け説明会を開催したところ、来場者が市内企業への採用面接に進み、採用に結び付いた。
- 夏休みに市内製造業事業者や金融機関等と連携して実施した小・中学生向けのものづくり体験イベントやオープンファクトリーを初めて開催したところ、募集の約 2 倍の応募があるなど盛況。参加企業からも「自社の技術や製品を市内の子供たちに知ってもらえる貴重な機会になった」「オープンファクトリーの段取りを若手社員に任せたところ、自分の仕事を見つめなおすきっかけとなりモチベーションが上がった」との声があった。

(4) 企業間や产学交流の開催

- 産業交流拠点「うじらぼ」を活用した異業種交流会の開催回数を大幅に増やしたことにより、参加者数の増に加え、交流を契機とした受発注や金融支援、コラボ商品開発等に発展した。
- 大学施設や研究室の見学会開催等により、市内企業と大学との間に繋がりが出来、大学から企業へのインターンシップ受け入れや市内企業を舞台としたフィールドワークの実施へ発展した。

(5) 市内産業の情報発信

- 市内の観光マップをリニューアルし、掲載店舗の増加等の内容充実を行った結果、閲覧数が大幅に増加した。
- ご当地ゆるキャラ「チャチャ王国のおうじちやま」を活用したPRに注力し、海外に13店舗の公式ショップを展開、市内産品の販売額が増加した。
- 高品質な宇治茶の生産を支援し、碾茶の部において、全国茶品評会では通算55回、関西茶品評会でも通算19回の産地賞を獲得するなど、宇治茶のブランドイメージの向上に繋がった。

(6) 事業の担い手の確保

- 高校生・大学生の市内でのフィールドワークや事業者との交流を通じた事業づくり体験を行う「宇治市未来キャンパス」事業を実施したところ、参加者から実際に起業されたり、交流会の運営に携わる方が生まれた。
- 宇治市への起業の相談をいただき、起業者向け交流会やセミナーによる支援や、開業資金補助制度による支援により、円滑な起業を実現されるケースが生じた。
- 就農者に対する助成制度（農業次世代人材投資資金、パイプハウス設置助成金等）を活用いただくことにより、宇治市での新たな就農に繋がった。